

日本篆刻家協会会報

第13号 平成26年9月30日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853
E-mail: info@n-tenkoku.jp
http://www.n-tenkoku.jp

創立三〇周年に想うこと

日本篆刻家協会は本年度三〇周年を迎えました。

四月には、第三〇回日本篆刻展を神戸市の兵庫県立美術館王子分館「原田の森ギャラリー」で開催し、同時にANAKラウン Plazaホテル神戸に於て盛大な祝賀会を行いました。兵庫県立美術館豊館長をはじめ兵庫県・神戸市等の文化担当の方々、中国・台湾の著名篆刻家、全日本篆刻連盟・扶桑印社幹部等にお越しいただき盛大に執り行うことができました。これも創設者の梅舒適先生のお陰であり、役員並びに会員の総意によって成し遂げられたものと深く御礼申し上げます。

さて、今後の協会発展はどうあるべきか、それは全会員が考えなければならぬことです。本協会の会員数も、十数年前をピークに、徐々に減少傾向にあります。これを少子高齢化だけにその原因を求めてはいけなさと考えます。また、会員増に比例して作品内容も向上するか

理事長 尾崎蒼石

と言うと、必ずしもそうではないと思います。

今後の方針として、本年度の三〇回展から行った小中学生篆刻展を更に充実させていくことは勿論ですが、各地に次世代を担う指導者の育成が急務です。加えて会員一人ひとりの意識改革も重要になってきます。それは他人任せの学習から、自ら自発的学習に移ることが肝要でしょう。「自ら考え、自ら制作する」ことの大切さを感じてもらいたいと思えます。これは私からの提案です。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。



挨拶する尾崎蒼石理事長



太鼓で幕を開けた30周年記念祝賀懇親会

第三〇回日本篆刻展

全国規模の篆刻公募展「第三〇回日本篆刻展」が四月九日から十三日まで開催された。今回は三〇回の記念展であり、大阪市立美術館から兵庫県立美術館王子分館（原田の森ギャラリー）へ会場を移しての開催となった。

昨今の少子高齢化に伴う篆刻人口の減少に対する方策の一つとして、初めての試みであるが、「小中学生篆刻展」が併設開催された。



評議員、常任委員、委員の作品



併催の小中学生篆刻展

第三〇回日本篆刻展は公募作品六五〇点、会員作品二七一点、委員作品二五〇点、常任委員作品二一〇点、役員作品二〇四点の合計一〇〇〇点が、二階大展示室一堂に集められ、その光景は圧巻であった。

特別展観として「篆社先賢作家作品」を、軸・額は壁面に、印影・印材はガラスケースで、協会の草創期を支えた三四人五九点が展示された。今回展示された作家は次のとおりである。（順不同 敬称略）

梅舒適・森川二華・小山鳥雲・山口武美・奥谷春山・奥谷九林・大沢碧水・大島芳雲・梅田流芳・所 洞谷・田中對泉・角田三谿・田中鶴山・高尾蘇山・下村湖山・岡野皐道・川合東皐・板谷 富・鈴木桂海・前田朋雲・杉本長雲・重本藝城・中村溪秀・河北憲昭・玉木水象・大原邦舟・邊見仿厓・廣瀬加陽・後藤芳川・土谷雲盧・広畑青嶂・西田大画・谷井氣澄・村上石堂

併催の小中学生篆刻作品展には、北は北海道から南は九州まで全国各地の若き篆刻作家たちの作品五八三点が寄せられ、各地指導者の熱意はさることながら、小中学生の篆刻に対する興味・関心の高さを知ることとなった。作品も大人顔負けのすばらしいものが多く、中には側款拓まで添付された作品もあり、観る者に大きな感動と刺激を与えた。

なお、『第三〇回日本篆刻展作品集』

その他、日本篆刻家協会創設三〇周年記念誌として、『日本篆刻家協会三〇年』と『篆社印人』が上梓された。

（展覧会部 黒田玉洲）



特別展観「篆社先賢作家作品」



評議員・理事作品



韓天衡先生夫妻



台湾印社の薛平南（右）、陳宏勉両先生



役員作品



西泠印社の余正先生（右）



篆刻芸術研究院の駱丸瓦先生



篆社先賢作家特別展観



小中学生の篆刻作品と入賞作品



会場入口

授賞式・30周年記念式典

4月13日ANAクラウンプラザホテル神戸にて第30回展授賞式が開催された。

会員260人が出席、梅舒適賞、大賞、準大賞、知事賞、市長賞をはじめ、各賞が手渡された。



授賞式で挨拶する尾崎蒼石理事長



兵庫県芸術文化協会は川哲秀業務執行理事



神戸市長賞を贈る神戸市の宮道成彦担当課長



兵庫県芸術文化課林隆之課長から知事賞



受賞者代表に賞状を贈る平田蘭石副理事長



謝辞：日本篆刻展大賞受賞の芦野優美子常任委員



祝辞：駱芃芃中国芸術研究院篆刻芸術研究院長



祝辞：林隆之兵庫県企画県民部芸術文化課長



梅舒適賞を贈る尾崎蒼石理事長

計三十三人
扶桑印社遠藤強運営委員長、稲村龍谷
毎日展審査委員会他。

全日本篆刻連盟河野隆副会長、和中簡
堂理事長。
兵庫県企画県民部芸術文化課林隆之課
長。公益財団法人兵庫県芸術文化協会は
川哲秀業務執行理事。神戸市市民参画
推進局文化交流部宮道成彦担当課長。

兵庫県立美術館養豊館長。

台湾印社薛平南副社長、陳宏勉秘書長。
NPO法人大阪府日中友好協会大藪二郎
副理事長。

西冷印社余正理事、梁章凱理事、晋鷗
社員他。

中国芸術研究院篆刻芸術研究院駱芃芃
院長、馮寶麟研究員。

西冷印社韓天衡副社長夫妻。

中国駐大阪総領事館張梅文化担当領
事、胡元元アタッシユ。

三〇周年展の成功を喜び、更には
四〇周年、五〇周年への意気込みを共
有したいと思えます。

(褒賞部 渡邊和琴)

引き続き、日本篆刻家協会創立三〇
周年記念祝賀懇親会が、太鼓の演奏が
響きわたる中、幕が開けられた。中国、
日本の大勢の来賓をお迎えし、三〇周
年を寿ぐご祝辞をいただき、厳粛かつ
華やかに執り行われた。



大藪二郎大阪府日中友好協会副理事長の首頭で乾杯



河野隆全日本篆刻連盟副会長



豊田兵庫県立美術館長



張梅中国駐大阪総領事館文化担当領事



来賓あいさつする韓天衡西冷印社副社長

第七回中央研究会

八月二日～四日の三日間、シーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催され、全国から一六五人が参加した。



全国からの参加者と会場いっばいに並べられた画像碑と画像石拓本



スライドで解説しながらの講演

一日目
正午から受付が始まり、午後一時三十分定刻通りに真鍋井蛙副理事長の司会で開会され、尾崎蒼石理事長の挨拶、分刻課題についての説明がなされた。また、尾崎理事長が本年度の改組新第一回日展の新審査員に就任されるという慶事の発表もあった。
なお、この件について先生から、
・鑑審査前において、会派の研究会での指導、下見は行わない。



展示の拓本を解説する小村圃講師

・鑑審査の前後を問わず、出品者から金品を受け取らない。
・篆刻は複数の審査員が選任されないため、最初から漢字仮名等の部門の審査員全員で審査する。
など、改革事項が告げられた。
続いて、小村圃代表理事による「漢画像碑と画像石の拓」の講義があった。会場をグルリと囲む机上には先生が心血を注いで蒐集された貴重な画像石ならびに画像碑の拓本が展示され、その数と種類の多さに圧倒。山東・河南・陝北・川渝・徐州の各地区に分類され、その内容では特に「周公輔成王」の周公旦が幼い成王に「あずかっていた王の印を綬とともにお返しする」という画像が印象的であった。

午後二時から
の「青田の研究」は二部構成で、井谷五雲副理事長からの「青田を訪ねて」は、今春訪中に同行した、稲垣華扇理事・東尾高岳理事・北田成磊評議員が発表者として登壇した。浙江省麗水



幹部役員による添削指導



印社代表者会議

た。また、趙之謙が稼孫のために刻した印款にある崇山三關の一少室關にその走馬角抵戯の实物を河南省へ視察に行かれた話や、博物館で購入した拓本の真贋など写真等を交えながら楽しく拝聴した。講義終了後各自宿泊室へ移動し、分刻作品の制作に入った。
二日目
朝食後、印社代表者理事会があり、午前中は各自制作、舞子の間では、井谷五雲・酒居石荘・多田龍淵・中島春緑各先生による添削指導が行われた。

若手メンバーによる「青田石の研究」の発表



市青田県の山口という産地を訪れたが、その高騰ぶりはまさに中国バブルの象徴でもあった。また、青田石は、葉蠟（叶蜡）石と石英の絶妙なバランスで生成されていることなどが報告された。尾崎蒼石理事長からは「青田石の鑑賞と研究」と題して、先生方が収蔵されている、燈光凍・蘭花青田・封門青など青田石の名品と古今の名家が青田石に刻した印材が展示され、個々に解説された。ま



青田石の名品を鑑賞

常務理事の司会、平田蘭石副理事長の乾杯の御発声で開宴され、各公募展での成績が古溝幽畦常務理事より披露され、入賞者が紹介された。余興では、企画委員の先生方から青田石のプレゼントがあり、各テーブルに二顆ずつ、その他カラオケ参加者に贈呈された。なお、青田石の提出を忘れた小先生からは前日展示した画像拓のサプライズプレゼントがあった。



画像拓をかけて小林圃代表理事とじゃんけん



プレゼントの青田石を選ぶ当選者

た、米芾をはじめとする宋の四大家・元の四大（画）家について、王冕と石印材との出会いなどの講義も行われた。

三日目
各自制作提出した分刻作品を喜多芳邑代表理事が講評、講義で得た画像の知識を早速自身の作品に取り入れた物が多く見られた。
尾崎蒼石理事長の閉会の言葉では、来年の研究会は八月二十二日（二十四日）に同会場で行われること、第三十一回日本篆刻展は四月十五日（十九日）原田の森分館で開催のことなどが発表された。

最後に山下方亭常任顧問より、「今年以上に来年の参加者が増えるよう「皆さん頑張りましょう！」との励ましのお言葉で無事閉会した。



喜多芳邑代表理事による講評



提出された分刻課題

（研究部 東尾高岳）

青田県訪問記

○青田県と青田石について

井谷五雲副理事長と小朴圃代表理事を中心として訪中団を結成し、三月二日から三〇日まで上海・温州・青田・南昌・九江・廬山を訪問した。娯憚文会から小上玉蘭・稲垣華扇・齊平豪会から東尾高岳・畦石舎から竹内立女・石留之然・石崎魯人・川端景司・北田成磊の合計八名が団員として参加した。上海では魯迅と内山完造の足跡を辿り、九江では廬山に上り、陶淵明記念館を訪ねた。今回、青田県を訪問した目的は青田石が採掘されている青田県を知り、近年、質の低下が著しい青田石の現状を自分たちの目で確認し、願わくば安価で質の高い青田石を手に入れるためだった。我々は上海から飛行機で温州に入り、車で青田を目指した。



坑道入口前で

採掘現場では幸運にも坑道の中まで入ることができた。実際に見た青田石の層は思っていたより遥かに少なく、印材として我々の手に届くまで一体どれだけの手間と労力がかかるのかと思うとその貴重さをあらためて考えさせられた。

麓の中国石彫城では印材屋が軒を連ね、一類数千

のものから安価なものまで様々な印材が販売されていた。正直なところ数千のものには言うに及ばず、安価なものであっても質と価格に満足いく印材はあまり多くなく、現地であっても決して安価で購入できる訳ではないことを知った。偶然、店の裏手に切断した印材の残骸が大量に捨ててあるのを見つけ、全員で「印材拾い」をしたことは今回一番の思い出である。その他にも青田県には石彫博物館や千絲岩石文化文化公園など篆刻と関係の深い場所

坑道内で拾った原石



が多く、とても有意義で充実した時間を過ごすことができた。



千絲岩石文化文化公園



中国石彫城

今回、現地を訪ね、山に上って採掘現場を見てその労を知り、町に下りて青田石に携わる人々の想いを知り、そして何より青田県の穏やかな風土を感じ、本当の意味で青田石を理解することができたように思う。今回の訪問をきっかけに今後ますます本協会と青田県との交流が盛んになり、多くの人々が青田県に足を運び、青田石をもっと身近に感じてもらえることを願ってやまない。

(北田成磊記)

・青田県(浙江省麗水市)について

青田県は浙江省にあり、青田石の産地として知られる。一般的に浙江省は紹興酒と越劇が有名であり、我々にとっては西冷印社や蘭亭など魅力の尽きない地域でもある。『青田県志』によれば六朝時代には既に石彫の記録があり、この青田石産業は青田県の工業総生産の約一八%を占めている。また青田県は伝統的な「僑郷」としても知られており、海外移住者からの送金・寄付・投資などによって経済を大きく発展させてきた。「僑郷」とは多くの海外出稼ぎ者や移住者を送出した地域のこと。王貞治さんの父・王仕福さんも青田県からの出稼ぎ者のひとり。初めて帰郷した際には村に水力発電設備を寄付している。

・青田石について

青田石は学名を葉蠟石(葉臘石)(英名: Pyrophyllite / パイロフィライト)といい、中国名は叶蜡石(叶腊石)と呼ばれている。「葉」は葉のようにはがれる性質を持つていることを意味し、「蠟」は蠟のようないろはな質感・光沢を持つていることを意味している。英名の Pyrophyllite はギリシャ語の火(Pyro)と葉片(phylla)からなる。葉蠟石は葉蠟石と石英からなり、軟質の葉蠟石と硬質の石英との成分のバランスによって、印刀で刻すことができるかどうか、印材に適しているかどうかが決まる。つまり我々が「青田石」と呼んでいる印材は「葉蠟石かつ印刀で刻すのに適した青田県から産出される石」と定義することができる。印材以外の用途として裁縫用のチャコや石筆、耐火レンガ等があり、産地としては中国の他にロシアや韓国等が挙げられ、日本では長崎県五島や岡山県三石が有名である。



坑道内の青田の層

三月課題 「上下一心」

四月課題 「九野清泰」

役員(喜多芳邑選)



正步



明峯



之然



紀翠



青露

常任委員(堤白遊選)



沙舟



芳泉



平峰



誠峯



緑

委員(古溝幽畦選)



雪峰



碧風



静二



英昭



榴華

會員(中村葉舟選)



住好



誠



極浦



輝雄



正男

一般(長谷川帰海選)



勝山



瑞恵



幽篁



玉芝



碧翠

役員(酒居石莊選)



燕安



立女



青露



彦裔



桃園

常任委員(松本雅至選)



汀華



翠龍



草翠



平峰



笙鶴

委員(石原豊玉選)



秋露



明可



戲石



正明



春冷

會員(御手洗肩山選)



千博



龍孫



香之



正男



裕進

一般(伊佐治祥雲選)



玉芝



幸弘



碧翠



和彦

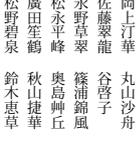


美智子

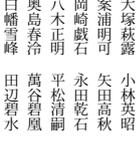
役員(原田重寛選)



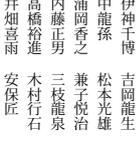
上田聰雲



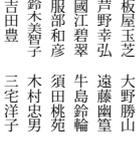
武友知子



南敏子

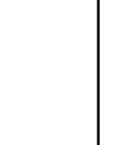


山崎一雄

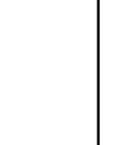


石龜明雲

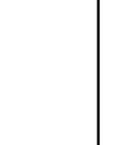
常任委員(渡邊尚石選)



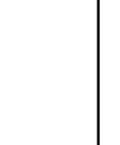
丸山沙舟



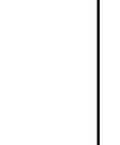
佐藤翠龍



谷啓子

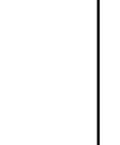


矢田高秋

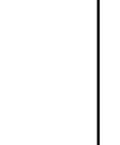


永田乾石

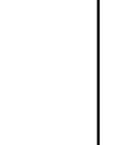
委員(月森康生選)



小林英昭

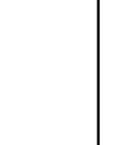


平松清嗣

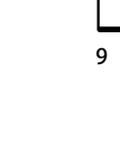


永田乾石

會員(奥島龍浦選)

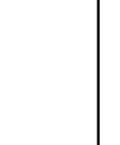


伊神千博

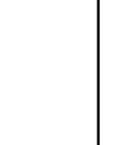


松本元雄

委員(奥島龍浦選)

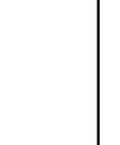


伊神千博

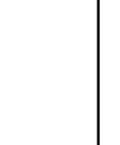


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

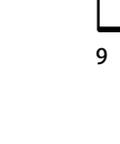


伊神千博



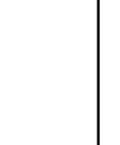
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

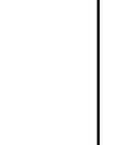


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

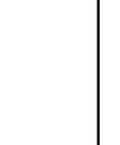


伊神千博

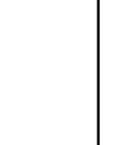


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

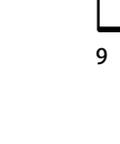


伊神千博



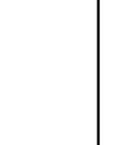
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

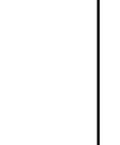


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

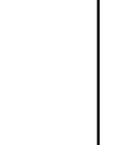


伊神千博

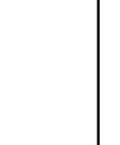


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

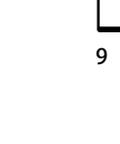


伊神千博



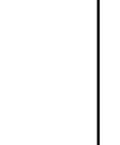
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

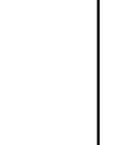


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

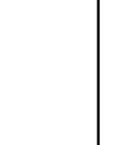


伊神千博

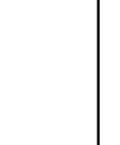


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

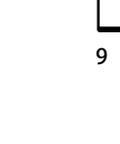


伊神千博



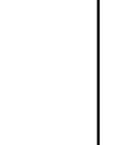
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

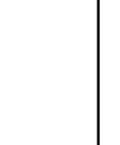


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

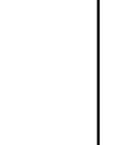


伊神千博

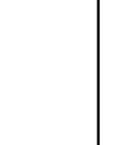


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

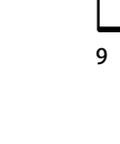


伊神千博



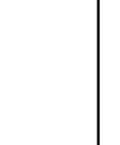
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

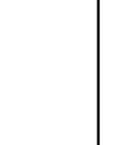


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

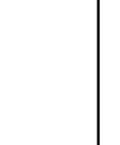


伊神千博

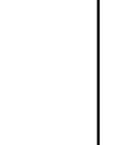


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

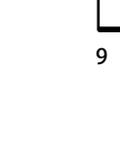


伊神千博



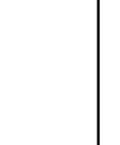
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

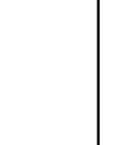


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

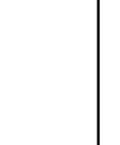


伊神千博

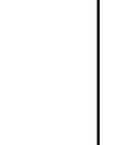


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

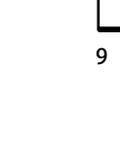


伊神千博



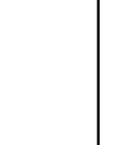
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

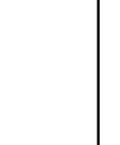


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

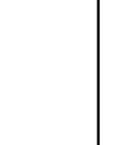


伊神千博

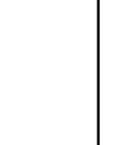


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

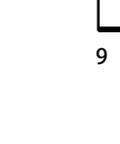


伊神千博



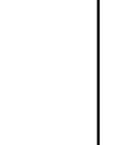
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

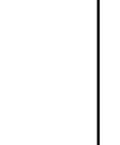


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

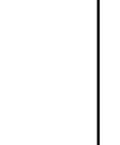


伊神千博

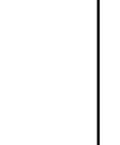


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

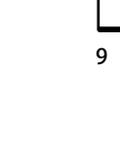


伊神千博



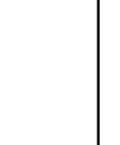
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

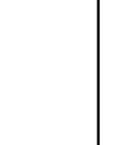


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

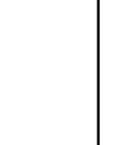


伊神千博

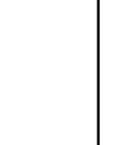


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

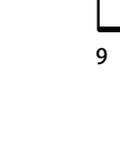


伊神千博



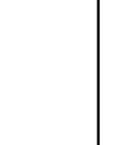
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

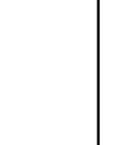


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

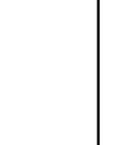


伊神千博

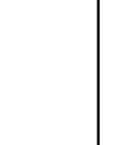


松本元雄

會員(奥島龍浦選)

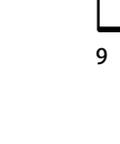


伊神千博



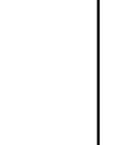
松本元雄

委員(奥島龍浦選)

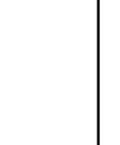


伊神千博

委員(奥島龍浦選)

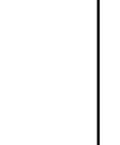


伊神千博

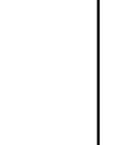


松本元雄

會員(奥島龍浦選)



伊神千博



五月課題

「三載千秋」

役員(小朴圃選)



立女



之然



白水



宗雄



祥雲

常任委員(出田塘霞選)



見聲



香堂



八哥



鏡水



秀風

委員(黃平齋選)



蘆山



桂華



戲石



秋露



群蛙

會員(伊藤雅夫選)



輝雄



龍孫



匠



綠泉



容子

一般(黒田玉洲選)



勝山



幸園



碧翠



哲男



泓

- 【役員】 山本恵子
 ○竹内立女 島穆風
 ○石留之然 畑間青露
 ○川崎白水 宇於碧翠
 ○宮野宗雄 田中九成
 ○浅野祥雲 松田泰軒
 ○古野燕安 川西卯水
 名倉克彦 杉本素月
 計四七人
- 【常任委員】 井久保明
 ○立石見聲 井本敏子
 ○梅林香堂 井本亮石
 ○楊八哥 寄田龍神
 ○吉田鏡水 小嶋昌秋
 ○津田秀風 水野和香
 ○田原群蛙 鈴木真壽男
 ○大塚秋露 鈴木真壽男
 ○岡崎戲石 吉崎雲登
 ○長澤瀧山 松川白遊
 ○高杉桂華 松川白遊
 ○向仲輝雄 兼子悦治
 ○中龍孫 兼子悦治
 ○安保匠 大原誠
 ○應野綠泉 小澤一哉
 ○守容子 中井榮子
 ○乙守容子 小貫剛
 ○馬場穆風 松浦雅宣
 計七六人
- 【委員】 武田之信
 ○吉田豊 吉田豊
 ○大野勝山 諷晶石
 ○三井顔了 三井顔了
 ○中島幸園 三井顔了
 ○國江碧翠 片岡和子
 ○根本哲男 川尻政夫
 ○坂中泓 服部和彦
 ○小林靖武 松岡泰南
 ○清水正男 後藤英子
 計二六人

六月課題

「五光十色」

役員(多田龍淵選)



燕安



早知子



胡蝶



白水



宗里

常任委員(榊原晴夫選)



青桐



草翠



素翠



臥牛



碧泉

委員(武井岳峰選)



桃雨



蘆山



碧風



雪峰



春冷

會員(熊本晴文選)



秋鹿



梅風



龍孫



綠泉



悦治

一般(南岳果露選)



勝山



幽篁



顔了



幸弘



玉芝

- 【役員】 岸村政風
 ○古野燕安 服部九純
 ○近藤胡蝶 田中九成
 ○川崎白水 浅田泰軒
 ○吉田宗里 松田泰軒
 ○今村重圃 山本恵子
 計五三人
- 【常任委員】 浅野道男
 ○福本青桐 河瀬魚仙
 ○水野翠翠 川久保明
 ○宮越翠翠 小谷知洲
 ○加藤臥牛 水野和香
 ○松野碧泉 垣内誠峯
 ○梅田五月 岡上汀華
 ○矢野龜山 上野鶴羽
 計六〇人
- 【委員】 磯村育治
 ○開發桃雨 伊野井啓
 ○長澤瀧山 大塚秋露
 ○萬谷碧風 堂守唯文
 ○白幡雪峰 池谷宝樹
 ○奥島春冷 高橋忠義
 ○中島敬次 高杉桂華
 ○吉崎雲登 矢田高秋
 計七五人
- 【會員】 貞蘇陽子
 ○井上秋鹿 馬場弘泰
 ○長沼梅風 寺地寿和子
 ○中龍孫 駒見華山
 ○應野綠泉 井上江洲
 ○兼子悦治 橋本游月
 ○松村信天 和田扇舟
 ○木田好昭 山本智子
 計六五人
- 【一般】 國江碧翠
 ○大野勝山 広森勝竹
 ○遠藤幽篁 吉田豊
 ○三井顔了 後藤英子
 ○芦野幸弘 服部和彦
 ○板屋玉芝 片岡和子
 ○鈴木善智子 諷晶石
 ○清水正男 川尻政夫
 計二四人

七月課題

「不同而一」

役員(中島春緑選)



純司



恵子



呉山



胡蝶



容庸

常任委員(堤白遊選)



誠峯



青桐



墨石



草翠



知洲

委員(古溝幽畦選)



戲石



哲舟



静二



敬次



貴美子

會員(中村葉舟選)



極浦



景司



匠



住好



春壽

一般(田中修文選)



晶石



玉芝



泓



幽篁



勝山

役員(武友早知子)

- 土井純司 増田繁治
- 山本恵子 得永春水
- 田原真山 村田祥風
- 近藤蘭蝶 今村重樹
- 木村容庸 松田泰軒
- 南敬子 古野英安
- 岡田桂舟 島穆風

計五二人

計六三人

計七八人

計七〇人

計七六人

計七〇人

計七六人

計六三人

計二九人

八月課題

「六合一和」

役員(渡邊和琴選)



早知子



燕安



静雲



容庸

常任委員(松本雅至選)



秀風



芳泉



香堂



汀華

委員(石原豊玉選)



戲石



久利江



雪峰



蘇西



耕石

會員(御手洗眉山選)



匠



陽子



住好



秋鹿



正人

一般(熊本晴文選)



勝山



碧翠



幸園



晶石



瑞恵

役員(坂正歩)

- 武友早知子 得永春水
- 古野英安 松田泰軒
- 上田静雲 浅良生華
- 木村容庸 南敬子
- 長谷川拓石 田中九成
- 増田繁治 樫野麗琴
- 村田祥風 今西九郎

計五一人

計六五人

計七六人

計六三人

計二九人

①



① 印の大きさと文字のバランス

右の作が公募展出品には一般的でよいと思います。では、左の作のどこが悪いのか？

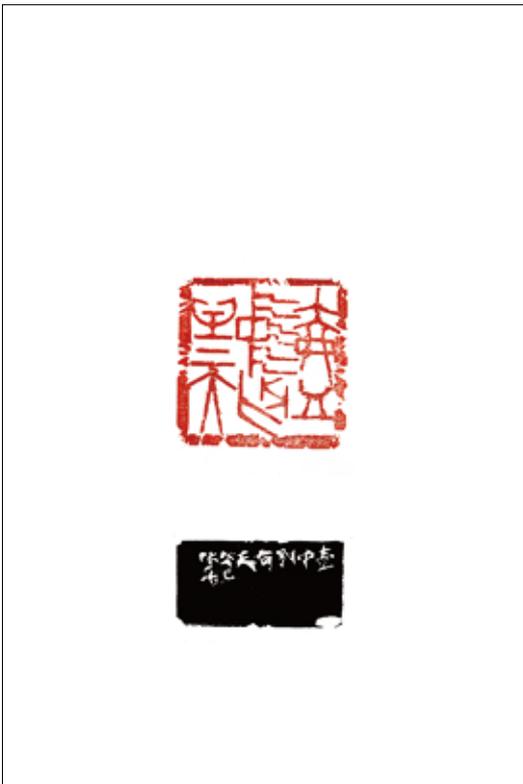
まず、文字の大きさです。印を見せるわけですから、この位文字を大きく書いてしまいますと印のインパクトが薄れてしまいます。また、この作の雅印が大きすぎます。一般的には、三分から二分くらいがよいでしょう。それも印式に則つたものでないと不利益をこうむることがあります。姓の一字、号の一字や、井蛙之印の如く、号に「之印」を付したものは避けるべきでしょう。姓名印なども入落のジャッジに関係することを肝に命じておいてください。

② 印泥のつけ具合と印と拓の位置

ここにあげた例は日本書芸院展等の審査でよく見かけるものです。おおきく問題点が二つあります。

まず、印泥のつき具合が悪くカスレた部分が目につきます。以前、梅先生から私の門下生の作に対し、「君の門下はロクな印泥を持つとらんなあ」と一言ご指導がありました。皆さんはくれぐれも鈴印に最大限の注意をはらってください。ただし、印泥のつけ過ぎも線が弱くなり不可です。様々な展覧会を見に行きますと、鈴印法がいかに大切かがわかります。

二つ目は、印と拓の間が接近しすぎています。個々の癖もありましようが、



②

一般的にはこの間を六〜七cmくらいとりたいものです。また、印と拓のみでまとめあげる場合は、雅印の有無は問いません。

展覧会成績

第六八回 日本書芸院展

史邑賞
中村葉舟
大賞
小上玉函 東尾高岳 池田泥異
坂東香璋

特別賞

石留之然 岸村爽風 城下江擘
仲森蓬園 尾原衣香 平田征男
松野碧泉 松本清苑

第六〇回 全関西美術展

全関西美術展賞 第二席
山本寿法

全関西美術展賞 第三席

渡部芳月
全関西美術展賞 佳作
古野燕安
日本書芸院展賞
堤白遊 伊藤博則 丸山沙舟
岡上汀華 葭岡慶石 白石恭三
平田征男 森静二 中島重陽

第三二回 読売書法展

読売俊英賞
松本雅至
読売奨励賞
小上玉函 下井嶺葉
特選
稲垣華扇 岡上汀華 射場少藍
山本寿法

秀逸

青黄游魚 今西九郎 石崎魯人
内田紅楓 尾崎喜游 神戸貴雅
岸村爽風 高杉桂華 得永春水
戸出紅桃 仲森蓬園 永井守
庭田露舟 畑間青露 松波智水
山谷加津子 葭岡慶石 吉田雅風
瀧上紀翠 山崎井泉

第六回 日本篆刻家協会役員展

第六回日本篆刻家協会役員展は古河市の篆刻美術館で四月二十六日(土)から六月二十六日(木)までの二ヶ月間開かれました。

今年の展示した役員作品は参事・理事三十三点、常務理事以上三十八点、関東地区の参与・評議員の額装作品十点を加えて計八十一点でした。運営の



方法を美術館と協会との共催形式を改め、今年から美術館主催として展示して頂くことになりました。

協会としての開幕行事が開催されなくなつたことに「残念」との声もありましたが、時期も昨年までよりは季節の良い春からの開催となり、かつて遠く室町時代・東国の政治の中心「古河公

方」の地に観光に來られる方も数多く見学に立ち寄り、私たちの作品を鑑賞して頂けたようでした。期間中の観覧者は一三三名あり、所謂「篆刻サイズでなく、幅広い表現方法に接することができた」と言う賞賛の声を聴くこともできました。(市川両僊)

青鏡忘詠(九)

小朴園

「海日楼」

海日樓の印を見ていただきたい。①は呉昌碩刻、印影を記憶しておられる方も多いことと思う。他は誰の刻かは不明だが、缶翁と比べられることとなるうとは思つてもいなかつたであろう、が、結果は酷である。呉昌碩の豊かな感性と同時に、どれほど印稿に意を注いで考え抜いたかが知られ、結果、このような燦然と輝く作品となつてい



よる仕事でも、時が経つといずれ公表されることがあるのが篆刻である。課題の決つている競刻であれば、字法・刀法もあるが、何と言つてもいかに章法に意を尽くして考へぬいたバランスを見つけ出し、それを表現し得たかは作品の生命と言つてよからう。印稿ができれば八割方は仕事は終り、という言葉になる所以である。

また考るといつた具合。

再度缶翁の印を見よう、どう考へてもこの章法簡単に思いついたとは思われない。子規に似た苦悩の末に考へついた結果のこの輝きであるうことは想像に固くない。

この印を見る毎に印稿の大切さを思い知らされる。

各印社活動 トピックス

喜多芳邑作品展



三月二十六日より三十日までの五日間、昨年夏、西冷印社名誉社員にして頂いたことを記念して、急遽、奈良県文化会館を予約し初めての個展を開催した。

九月末より年内に印の完成。二月末までに書作品の完成。慌ただし今年末年始を過ぎたが、あと二〇メートルが埋められず書芸院展の旧作で壁面を飾ることになってしまったことが心残りである。机上作品としての五〇類の印の中には駄作も多く、書作品に至っては推敲不足の作も多々ある。力不足か時間不足か、図録も作り反省ばかりではあったが、これが今の自分であった。約八〇〇人の入場者数で、遠いところ山下



随風會会員の出品者は九五名、全紙から篆刻額の多様なサイズ作品。全紙作品は十一月の韓天衡記念館で開催する上海展に出品するためである。貝原益軒本朝千字文、缶盧刻印詩の分刻折帖、印譜、龍文誌上展秀作作品折帖の展示等多種多様。併催の「呉昌碩ゆかりの人々展」尊彝閣収蔵品を中心に呉昌碩以下歴代の

の社長から西冷印社の四人の創立者と社員の書画作品、印譜、刻印等を陳列。京都市美術館の会場でこそ可能な陳列であり、一週間の会期では勿体ない展示質量。

最終日の授賞式では京都市長賞、教育長賞等の各受賞者に賞状、賞品の授与があり其れに続く文字学者、張莉先生の講演会「白川静文字の世界」も多数の参加、聴講がありました。

更に今年も東北地震の義援金にするために『和鏡 中国韓国の鏡 漢磚等のワンコイン採拓コーナー』を設置、収益金五七五三九円と山下先生からの五万円計一〇七五二九円を展覧会終了後、読売新聞京都総局に持参「読売光と愛の事業団」に寄付しました。二千人に及ぶ入場者を数えました。ご多忙の



きました。会場では、拓本を取る体験コーナーなど、来場者の方々に楽しんで頂く企画も設け、出品会員九二名の作品は拓本や水墨画を添える作品を多数展示、合わせて故大村高陵の遺作も展示し多くのお客様にお悼みのお言葉を頂き、また会員には激励の言葉を沢山顶戴致しました。



陰様で関西はもとより全国各地から沢山の方々に来ていただき、種々意見を頂戴し、新たに次の方向性も見えてきています。一体何なのだろうね、この三人は。三〇回を超えても尚次の回に意を燃やす。篆刻には我々を動かす魅力がまだまだある。(S)

第七回篆書社游藝展

二〇一四年九月五日(金)〜七日(日)まで、兵庫県立美術館王子分室 原田の森ギャラリー一階で開催致しました。最大三尺×六尺×二冊をはじめ総数約百点を展示致しました。今回は出品者全員で手書きポスターを作成し、掲示致しました。

月例作品募集（2015年）

	課 題	出 典
1月	博 学	論語
2月	無 宿 問	大戴礼
3月	一 點 素 心	菜根譚
4月	疑心生暗鬼	列子
5月	默 而 識 之	論語
6月	言 加 信	礼記
7月	蛩 雪	晋書
8月	盡 死 力	韓非子
9月	英 氣 動 人	旧唐書
10月	君子慎小物	春秋繁露
11月	錐 處 囊 中	史記
12月	大 丈 夫	孟子

応募要項

- ① 一般は一般を、一般以外は会員 CD を必ずご記入ください。未記入の場合は審査対象外となります。
- ② 印の大きさは一寸以内、用紙は協会指定印箋（篆社印箋も可）
- ③ 応募は各月 1 人 1 点、締め切りは各月末日（消印有効）

送 付 先 〒 563-0032 大阪府池田市石橋 2 丁目 2-10
 牧野ビル 203 日本篆刻家協会「〇月課題」係

お問い合わせ（協会事務所）TEL072-760-3852

顧問を始めとする多くの先生方にご高覧賜り厚く感謝する次第である。（芳邑記）

第二九回隨風會篆刻展報告

第二十九回隨風會篆刻展は、併催 生誕一七〇年記念—吳昌碩とゆかりの人々展—として四月一日から六日まで京都市美術館で開催。本年は吳昌碩生誕百七十年にあたり、特別出品として上海吳昌碩芸術研究会協会会長で吳昌碩記念館館長韓天衡先生、上海吳昌碩記念館執行館長吳越先生、上海吳昌碩記念館副館長吳超先生、贊助出品として中国篆刻芸術院研究員徐夢嘉先生、主宰の中華鉄筆会会員十四名の作品を展示。

中、篆刻家協会の多数の先生、会員のご来館ありがとうございました。

特別陳列の管理には気を遣いましたが、京都市美術館という会場に恵まれ展覧会を無事終了で肩の荷を下ろしました。（中村葉舟）

第三四回越思篆会篆刻作品展

六月三〇日（金）～七月一日（日）富山県高岡文化ホールに於いて第三四回越思篆会篆刻作品展及び富山市民大学篆刻同好会展の合同会展を開催しました。

この展覧会の約二ヶ月前に本会代表の大村高陵が他界し、開催も危ぶまれましたが、役員の方により無事に開催することが

最後にこの場をお借りし、生前大変お世話になりました理事長はじめ、協会役員の皆様、会員の方々へ心より感謝を申し上げます。（大村雪陵）

第三三回六轡会篆刻作品展

井谷五雲・小朴圃・真鍋井蛙

八月二七日～八月三十一日 於京都文化博物館 来場者約六百名。

篆刻にはどんな可能性があるのか、長い歴史の流れの先に、これからの篆刻はどうあるべきか、どうなっていくのか。理屈なく刻さずには居られなくなる、この身体を突き動かすものに正に押されての制作。お



作品同様に様々な表情があり御高覧を頂きました皆様にご好評を頂きました。（戸出九廬）

展覧会案内

- ▼齊平篆会(真鍋井蛙)
 - 第一七回齊平展
 - 併催 生誕一七〇年記念会員歳 呉昌碩とその交友
 - 会期 一〇月三日～五日
 - 会場 大阪くらしの今昔館
 - テーマ展示：月 字印
- ▼畦石舎(小朴圃)
 - 篆刻・書・画
 - 第二九回畦石舎作品展
 - 会期 一〇月四日～五日
 - 会場 京都市日図デザイン
- ▼不華篆会(酒屋石荘)
 - デザインとして見る篆刻の展開
 - 不華篆会習作展XXII
 - 「酒」字をデザインして生活の中に書・篆刻
 - 会期 十一月一日～三日
 - 会場 伊丹市立工芸センター
 - 同二六日～二四日に丹波の森公苑で巡回展
- ▼随風會(山下方亭)
 - 日本随風会書法篆刻展 IN 上海
 - 会期 十一月二日～五日
 - 会場 中国上海 韓天衡美術館
- ▼遠邇篆会(伊藤雅夫)
 - 第二三回篆刻と書遠邇篆会篆刻展
 - 会期 十一月四日～九日
 - 会場 浜松市 クリエート浜松
- ▼関中印社(平田蘭石)
 - 第一三回関中篆刻・篆書展
 - 会期 十一月二〇日～二三日
 - 会場 関市文化会館
- ▼黄和会(黄教奇)
 - 第二二回黄和会・墨染印社書道篆刻作品展
 - 会期 十一月一日～七日
 - 会場 静岡市民ギャラリー
- ▼清蓮社(池田泥巽)
 - 東花会館 書・画・篆刻教室作品展
 - 会期 十一月七日～二二日
 - 会場 川西市立ギャラリーかわにし

報告

- ▼娛揮文会(井谷五雲)
 - 第六回娛揮文会聴濤印会展
 - 会期 六月一〇日～一五日
 - 会場 名古屋市民ギャラリー
- ▼杏壇篆会(市川兩僊)
 - 杏壇篆会三〇周年展
 - 会期 六月二七日～二九日
 - 会場 コムファーストアピタ足利店
- ▼島根篆刻会(足立瑞泉)
 - 第三五回島根篆刻展
 - 会期 七月一日～一三日
 - 会場 中国電力松江支店ふれあいホール
- ▼蒼文篆会(尾崎蒼石)
 - 草津教室 篆刻書画作品展
 - 会期 九月一八日～二二日
 - 会場 滋賀県立近代美術館ギャラリー
- ▼第三〇回日本篆刻展
 - 四月九日(水)～三日(日)
 - 兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリー
- ▼第三〇回日本篆刻展 授賞式
 - 四月三日(日)
 - ANAクラウンプラザホテル神戸
- ▼創立三〇周年記念祝賀懇親会
 - 四月三日(日)
 - ANAクラウンプラザホテル神戸
- ▼第六回日本篆刻家協会役員展
 - 四月二六日(土)～六月二六日(木)
 - 古河市立篆刻美術館
- ▼第七回中央研究会
 - 八月二日(土)～四日(月)
 - シーサイドホテル舞子ピラ

協会行事

予定

- ▼常務理事会
 - 二月五日(土)
 - 大阪市 錦城閣
- ▼篆刻講演会
 - 二月二四日(月・祝)
 - 兵庫県民会館
- ▼平成二七年度
 - 理事会・総会・新年会
 - 一月二日(月・祝)
 - 大阪ベイタワーホテル
- ▼第三二回日本篆刻展 出品締め切り
 - 一月末
- ▼第三二回日本篆刻展 審査会
 - 二月二日(土)～三日(日)
 - 兵庫県立美術館王子分館
- ▼第三二回日本篆刻展
 - 四月二五日(水)～一九日(日)
 - 兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリー
- ▼第三二回日本篆刻展 授賞式
 - 四月一八日(土)
 - ANAクラウンプラザホテル神戸
- ▼第七回日本篆刻家協会役員展
 - 四月二五日(土)～六月二五日(木)
 - 古河市立篆刻美術館
- ▼第八回中央研究会
 - 八月三日(土)～四日(月)
 - シーサイドホテル舞子ピラ

編集後記

☆金米オープンテニスで錦織選手が準優勝した。日本人、アジア人として前人未到のグランドスラム決勝進出は本当にお見事の一言。新人幕で快進撃を続ける逸ノ城が初の横綱戦で鶴童をはたき込みで破った。新入幕の力士が横綱に土をつけたのは四十二年ぶり、初土俵から五場所目での金星も最速とのこと。スポーツ界では若手活躍の話題が尽きない。

☆わが協会でも、改組新第一回日展を前にして梅舒適先生の後、初となる審査員が誕生。創立三〇周年の年にささしい慶事だ。過日の中央研究会ではベテラン幹部に交じって若手メンバーが、中国青田県訪問を報告し、青田石印材の現状を講演した。昨年の「がんばろう東北篆刻展」から始まった篆刻界の東西交流を続けようと、今年には「篆刻講演会」を関西で開催の企画が進んでいる。また、随風会が中国上海で書法篆刻展を開催するという。

☆次のエポックに向かって、新しいウェブを起こそうではないか。(S)

編集…会報部
酒居石荘 榊原晴夫
木村容庸 内田真弓

MAIL info@n-tenkoku.jp
FAX 072-760-3853

お気づきのこと、ご意見など事務所までお寄せください。